

放射能関係のお知らせ

2017年4月3回(D週)

お届け日:2017/4/17~4/21

発行日:2017/4/3



本誌は、カタログ掲載の青果について、2017/3/30(木)午前中までの放射能自主検査の結果をお伝えしています。

●青果 放射能が検出されていない産地(セシウム 134,137 それぞれ 3Bq/kg 以下)

分類	品目名	放射能検査の状況
果実	甘夏	品目で検査済 小田原
		柑橘類で検査済 南伊豆
	いちご	品目で検査済 たまつくり・とちのみ・はが野・うつのみや・海上・佐原・遠州
		品目で検査済 小田原
	清見オレンジ	品目で検査済 小田原
	りんご	品目で検査済 南伊豆
	りんご	品目で検査済 八峰園・ゴールド農園
果菜	青大豆	品目で検査済 花咲
	きゅうり	品目で検査済 みちのく野菜・八千代・野菜くらぶ・邑楽館林・村悟空・サンド旭・佐原・和郷
		品目で検査済 谷田部・沃土
		検査予定 たまつくり
	ズッキーニ	果菜類で検査済 沃土
	トマト	品目で検査済 谷田部・葉菜野菜・うつのみや・野菜くらぶ・沃土
		果菜類で検査済 元気会・村悟空・佐原・いちかわ
	ミニトマト	品目で検査済 あゆみの会・元気会・サンド旭・和郷
		果菜類で検査済 八千代・野菜くらぶ・沃土・村悟空
	葉菜	アスパラ
葉菜類で検査済 あゆみの会		
大葉		葉菜類で検査済 村悟空・和郷
かき菜		葉菜類で検査済 夢みなみ・谷田部・野菜くらぶ・沃土
キャベツ		品目で検査済 谷田部・八千代・たまつくり・三浦EM・よこすか葉山・遠州
		葉菜類で検査済 常総産直・野菜くらぶ・沃土・村悟空・海上・佐原・和郷・三浦市
小松菜		品目で検査済 有機農法ギルド・葉菜野菜・野菜くらぶ・群馬モグラ・沃土・南埼玉・佐原・風土の会
		葉菜類で検査済 谷田部・たまつくり・やさと・草の会・八街
サニーレタス		葉菜類で検査済 谷田部・八千代・有機農法ギルド・常総産直・野菜くらぶ・八街・和郷・風土の会
チンゲン菜		品目で検査済 あゆみの会・佐原
	葉菜類で検査済 葉菜野菜・沃土・八街・和郷・遠州	
にら	品目で検査済 元気会	
	葉菜類で検査済 葉菜野菜・野菜くらぶ・和郷	
ねぎ	品目で検査済 たまつくり・南埼玉・八街	
	葉菜類で検査済 谷田部・八千代・利根川・沃土・村悟空・佐原	
葉ねぎ	品目で検査済 村悟空・南伊豆	
	葉菜類で検査済 谷田部・沃土・海上・佐原・サンド旭	
白菜	葉菜類で検査済 谷田部・八千代・常総産直	
へびーりーフ	品目で検査済 フェニクス・レインボー	
ほうれん草	品目で検査済 常総産直・草の会・沃土	
	葉菜類で検査済 谷田部・八千代・有機農法ギルド・たまつくり・利根川・野菜くらぶ・佐原・八街・和郷・風土の会	

分類	品目名	放射能検査の状況
葉菜	みず菜	葉菜類で検査済 谷田部・葉菜野菜・沃土・佐原
		葉菜類で検査済 葉菜野菜・沃土・南埼玉・和郷
	ルッコラ	品目で検査済 野菜くらぶ・サンド旭・和郷
		葉菜類で検査済 谷田部・八千代・常総産直・やさと・沃土・南埼玉・海上・佐原・八街・風土の会
	若芽ひじき	品目で検査済 寺島
根菜	かぶ	品目で検査済 谷田部・たまつくり・沃土・佐原・八街
		根菜類で検査済 八千代・風土の会
	しょうが	根菜類で検査済 和郷
	大根	品目で検査済 谷田部・海上・佐原・村悟空・和郷
		根菜類で検査済 八千代・葉菜野菜・沃土・八街・風土の会
検査予定 たまつくり		
長芋	品目で検査済 葉菜野菜	
にんにく	品目で検査済 八峰園・田子	

●2016年産米の検査

検査対象の産直産地のお米の検査を玄米で行い、検査は全産地終了しました。

2016年産の下記の産地・銘柄は、すべて不検出です。

青森県: JA津軽みらいの青森つがるロマン
 岩手県: JAいわて花巻の岩手ひとめぼれ、JA新しいわての岩手いわてっこ
 宮城県: JAみどりの宮城ひとめぼれ
 秋田県: JAこまちの秋田あきたこまち・オーリア21の秋田あきたこまち・花咲農園の秋田あきたこまち・JA秋田ふるさとの秋田あきたこまち、JAかつのの秋田淡雪こまち
 山形県: JA庄内たがわの山形はえぬき、JA山形おきたまの山形ササニシキ、庄内協同ファームの山形つや姫
 福島県: JA会津よつばの会津こしひかり
 新潟県: JA北蒲みなみの新潟こしひかり・JAささかみの新潟こしいぶき・JAにいがた南蒲の新潟こしひかり・JA魚沼みなみの魚沼こしひかり・JAえちご上越の新潟こしひかり・謙信の郷の新潟こしひかり・JA佐渡の佐渡こしひかり
 茨城県: JAつくば市谷田部の茨城こしひかり
 栃木県: 日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(19検体中17検体不検出 2検体は白米で検査を行い不検出)
 千葉県: JA君津市の千葉ふさおとめ・ちば緑耕舎の千葉こしひかり
 埼玉県: 南埼玉産直ネットワークの彩のかがやき
 長野県: JA佐久浅間の長野こしひかり

放射能は玄米のぬかにたまる傾向があります。玄米で検査後、供給は白米および玄米で行います。

●青果以外の牛乳・牛肉・卵・食肉類および加工品の対象商品はすべて検査をしています。*酒類はみりん料理酒を検査対象としています。

●青果の検査について

*北海道を除く東日本(新潟県・長野県・静岡県以東の本州17都府県)のカタログ掲載産地において、分類ごとに一品目以上検査をしています。報告の時点で検査が間に合わない品目については、供給前までには放射能検査を実施します。
 *旬のある果物などの検査は、シーズンでの収穫の時期のみになりますが、それ以外はおおよそ半年に1回以上の頻度で検査を行なっています。検査の日付は省略しています。
 *検査対象外地域でも放射能検査を実施している場合がありますが、掲載は省略しています。

*yumyum 果物セットにセットされている果物は、検出下限値1Bq/kgで検査を行っています。

●きのこ類

放射能が検出されていない産地(3Bq/kg 以下)

品目名	放射能検査の状況
えのき茸	品目で検査済 飯山
エリンギ	品目で検査済 小川きのこ・南伊豆・渡辺きのこ
生きくらげ	品目で検査済 きのこ総研
しめじ(ひらたけ)	品目で検査済 谷田部
ぶなしめじ	品目で検査済 谷田部
ささかみのまいたけ	品目で検査済 ささかみ
谷田部の若手生産者セット	品目で検査済 谷田部 *生しいたけ・なめこから放射能が検出されました。

●検出された商品

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
生しいたけ(原木栽培)	谷田部	2017/3/22	9.5
徳用生しいたけ(原木栽培)			
お料理セットの生しいたけ			
谷田部の若手生産者セットのしいたけ			
谷田部の原木しいたけ(はねだし)			
パルシステムの独自ガイドライン			100
政府の基準値			100

*3/29の検査では、「生しいたけ(原木栽培)」からの検出はありませんでした。

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
なめこ	谷田部	2017/3/24	4.4
谷田部の若手生産者セットのなめこ			
パルシステムの独自ガイドライン			25
政府の基準値			100

品目名	産地名	報告日	セシウム Bq/kg
コアフード 栃木こしひかり(玄米)	日本の稲作を守る会	2016/10/21	3.9
パルシステムの独自ガイドライン			10
政府の基準値			100

*白米では不検出でした

注文番号	商品名	報告日	セシウム Bq/kg
コトコ 341 きなり 297 きなりセレクト 341061	豚のチンジャオロースセットのしいたけ	2017/3/1	5.5
コトコ 352 きなり 302	海鮮白湯あんかけ炒めセットのしいたけ		
コトコ 354 きなり 112178 きなりセレクト 341070	ほうれん草の五目炒めセットのしいたけ	2017/3/22	9.5
コトコ 347 きなり 300	炒り豆腐セットのしいたけ		
コトコ 355 きなり 295	焼き酢豚セットのしいたけ水煮	2017/3/20	3.4
パルシステムの独自ガイドライン			100
政府の基準値			100

注文番号	商品名	報告日	セシウム Bq/kg
120粒:185493 240粒:185507	ブルーベリー&ルティン	2016/11/1	6.5
パルシステムの独自ガイドライン			25
政府の基準値			100

●青果の検査分類表

大分類	中分類	代表的な品目名
果実(くだもの)	—	みかん、りんご、いちごなど
果菜	果菜	きゅうり、トマト、なす、オクラなど
	未成熟豆類	枝豆、いんげん、スナップえんどうなど
葉菜	結球性・非結球性葉菜	アスパラ、キャベツ、白菜、ほうれん草、小松菜、ねぎなど
	花蕾・莖菜	ブロッコリーなど
	根菜	玉ねぎ、人参、しょうがなど
根菜・いも類	いも類	さつまいも、里芋など

なぜ山菜から放射能が高くてしまうのか

海水産水産物は、汚染水の関連で心配されています。養殖ではない、内陸水面の淡水産水産物はミネラル分を体の中に取り込み蓄積しやすい性質から、放射能が高く検出されます。

山に自生する山菜が、春から秋にかけて頻りに高い放射能を検出してします。原発から思いのほか遠い長野県などでも国の放射能基準値の 100Bq/kg を超えて検出された例がありました。

なぜ、山菜から放射能が高く検出してしまうのでしょうか？

● 里山の除染について

放射線量が1時間あたり、0.23マイクロシーベルト以上の地域を「汚染状況重点調査地域」と環境大臣が指定しています。この汚染状況重点調査地域が除染対象地域となります。森林の除染については、住居に隣接している林の端から 20m程度の範囲を目安として葉や枝や林地などの除去を行うこととしています。他に、人が頻りに立ち入る可能性のある施設(ほだ場、炭焼場、キャンプ場、遊歩道・散策道・林道、休憩所、広場、駐車場)があるなどを対象としています。これは、住居地に放射能が流入するのを防ぐことが目的です。

放射能が大量に広がった時期が3月とまだ落葉樹が葉を出していない時期だったために、落葉樹林では木の幹や林地に放射能が大量に降り、針葉樹林には葉や幹に放射能が付着しました。

生活圏に近いところでは、除染を行ってきており、落葉部分に多くの放射能が蓄積されていたものは取り除かれています。

● 里山以外の除染は継続課題のまま・・・

平成 24 年度放射能測定調査委託事業「福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質の長期的影響把握手法の確立」成果報告書によると、茨城県筑波山と福島県宇多川上流域を対象とした放射性セシウムの動態調査では、筑波山流域では1年間で約 0.3%の流出率で、福島県宇多川上流域では7か月で 0.02～0.03%の流出率と放射能が林地にとどまっていることがわかりました。

http://www.env.go.jp/jishin/rmp/attach/josen-g102_ver2_supplement-201609.pdf

林野庁はこれに対して「福島県内の森林の土壌や落葉層、樹木の葉や幹などの放射性セシウムの濃度とその蓄積量を調べた結果、森林全体の放射性セシウム蓄積量は、放射性セシウムの物理的減衰以上に減少していないことなどから、放射性セシウムの森林外への流出量は少ないと考えられる。」としていて、自然にまかせている森林の放射能はほとんど動かず、森林内の生態系の中での循環にとどまってしまうことが予想されます。

また、平成 26 年度独立行政法人日本原子力研究開発機構「福島長期環境動態研究」では、土地利用別の土砂及び Cs(セシウム)流出量によると、森林は大きな面積をしめていても、畑などにくらべて土壌の流出量は少ないことがわかっています。森林からの Cs(セシウム)流出割合はわずか 0.4%としています。これも同様に放射能が森林内にとどまりやすいことを示しています。

<https://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat01/pdf1401/3.pdf>

このようなことから山に自生しているきのこ類および山菜、それを食べている野生動物は放射能を取り込みやすい環境になっていることがわかります。

4 月から山菜の行政検査報告が多くなりますが、福島は山菜の採取禁止をしている地域が大きくあまり行政検査報告には掲載されません。しかし、西は長野、静岡など遠い地域でとれる、山菜でも高い放射能の検出があるのは、一度降った放射能が森林内にとどまり続けていることを示しており、遠い地域だからという理由で安易に山菜を採取して自家消費で消費することはあまりお勧めできません。

もし、利用する場合は、計測をしてくれるところで計測してからにすることをおすすめします。行政などでも計測をしてくれるところがあります。その際は、検出下限値に注意してください。

行政検査の検出情報

- 厚生労働省発表「食品中の放射性物質の検査結果について(第 1024)」(2015/8/2～2017/3/10 で採取・購入された検体検査)より、国の定めた基準セシウム合計 100Bq/kg 以上検出された検体です。

ウナギ: 千葉県柏市(手賀沼) 140Bq/kg

国の定めた基準セシウム合計 100Bq/kg 未満で検出された上位数点です。

タラの芽: 長野県軽井沢町ほか 30～80Bq/kg
 コシアブラ: 長野県木島平村・長野市ほか 19～78Bq/kg
 原木シイタケ: 茨城県常陸太田市・千葉県山武市 1.3～40Bq/kg
 マツタケ: 長野県小諸市 17～29Bq/kg
 コイ: 千葉県柏市(手賀沼)・香取市(利根川)ほか 3.9～66Bq/kg
 スジエビ: 千葉県柏市(手賀沼) 33Bq/kg
 モツゴ: 千葉県柏市(手賀沼) 31Bq/kg
 スズキ: 千葉県銚子市(銚子・九十九里沖) 0.54～20Bq/kg
 イノシシ肉: 茨城県石岡市・長野県中野市 17～36 Bq/kg

- 福島県の緊急調査で国の定めた基準セシウム合計 100Bq/kg 未満で検出された上位数点です。

フキノトウ: 福島県南相馬市 5.3～26Bq/kg

さまざまな理由により、自主避難を中断せざるを得ない方々の状況に対して相談を受けている「避難の協同センター」をパルシステムでは支援しています。

<http://hinan-kyodo.org/>

3月の放射能検査状況

3月24日までの3月の検査で、しいたけから、しいたけ(原木栽培)およびはねだししいたけからが3件(5.6、9.5、10Bq/kg)、お料理セットのしいたけが2件(3.4、5.5Bq/kg)、なめこより1件(4.4Bq/kg)の検出がありました。

乳幼児用食品は、検出下限値を4月から1Bq/kg に下げましたが、現在まですべて不検出です。検出された商品は、すべて自主基準以内の検出でした。

放射能検査の状況(検査件数、かつこ内は検出数、網がけは検出された分類)

	3月	3月の検出内容		3月
青果	31(0)		卵	0(0)
しいたけ	9(5)	原木しいたけ 5.6、9.5、10Bq/kg お料理セットのしいたけ 3.4、5.5Bq/kg	魚介類	26(0)
その他のきのこ類	20(1)	なめこ 4.4Bq/kg	飲料水・飲料	7(0)
米・米飯類	0(0)		乳幼児用食品	8(0)
牛乳・乳製品	5(0)		その他加工食品	234(0)
肉類	7(0)		合計	347(6)

2016年度の放射能検査の状況(2016年4月～2017年3月)

青果	2016年5月に小田原のバレンシアオレンジの3件中1件から3.2Bq/kgが検出されました。2017年2月に常総センターのれんこんで3件中1件(6.1Bq/kg)から放射能が検出されましたが、自主基準内でした。
しいたけ、他のきのこ	しいたけが(3.1～13Bq/kg)、しめじ(ひらたけ)が(3.0～3.5Bq/kg)、ぶなしめじが(3.1Bq/kg)、なめこが(4.4Bq/kg)で、放射能が自主基準内で検出されました。他のきのこ類は放射能不検出です。
米	2016年産米の検査は26産地67検体の検査を行いました。日本の稲作を守る会の栃木こしひかり(玄米)を検査したところ、2件(3.9、4.1Bq/kg)の検出がありました。検出された産地の米は、白米で検査を行い不検出でした。米の検査は全産地終了しました。 *放射能はぬか部分に多く蓄積します。検出されました栃木こしひかりは、不検出が確認されました白米でのお届けとなります。
牛乳、肉、卵	産地ごとに定期的に検査し今年度放射能は検出されていません。
魚介類	魚介類で放射能は検出されていません。
乳幼児用食品	検出下限値1Bq/kgで検査を行い、すべて不検出です。
その他加工食品	<p><お料理セット> 肉・豆腐などは定期的に検査を行っています。野菜のみを毎月検査を別途行っています。菌茸類については毎週検査を行っており、しいたけおよびしいたけ水煮(3.4～11Bq/kg)、まいたけ水煮(3.2Bq/kg)から自主基準内ですが検出しています。その他の菌茸類からの検出はありません。</p> <p><大豆加工品> 豆腐、納豆、味噌、醤油など大豆加工品は、2014年産および2015年産原料で検査を行っているものと、製品で検査をおこなっているものがありますが、放射能は検出されていません。</p> <p><その他> 2016年11月にサプリメントのブルーベリー&ルテイン(6.5Bq/kg)から自主基準内で検出がありました。</p>

パルシステムの放射能検査について

● 独自ガイドライン(自主基準)と検出限界について

パルシステムでは食品の残留放射能について独自ガイドライン(自主基準)を設定しています。放射線にはこれ以下なら安全という「しきい値」がないので、基準以下であっても、放射能低減を追求します。検査の結果、自主基準を超えるものについては供給いたしません。また、独自ガイドラインは継続的に見直しを行ないます。

自主基準(独自ガイドライン)(セシウム 134,137 の合計)	2014年10月より現行基準		国の規格基準
	現	旧	
水、飲料、牛乳、乳製品、米、乳幼児用食品	10	10	水、飲料茶 10 乳幼児用食品、牛乳 50
青果類(きのこ類除く)、肉類、卵、魚介類、その他食品、きのこ類(しいたけ除く)	25	50	一般食品 100
しいたけ	100	100	

*乾燥食品は生原料や摂食状態で検査します。(単位 Bq/kg)

乳幼児用食品は「yumyum」掲載商品とインターネットの赤ちゃん推奨商品。

検出限界(セシウム 134, 137 それぞれ)		
2016年4月1日から新基準に変更		
	新	旧
乳幼児用食品	1	3
水、飲料、牛乳、乳製品、米、青果類、肉類、卵、魚介類、その他食品	3	

● 放射能検査の対象範囲について

農畜産物とその加工品	北海道を除く東日本産(新潟・長野・静岡以東の本州産)
水産物とその加工品	日本沿岸・近海・一部の北太平洋・淡水産水産物